第2講　動詞

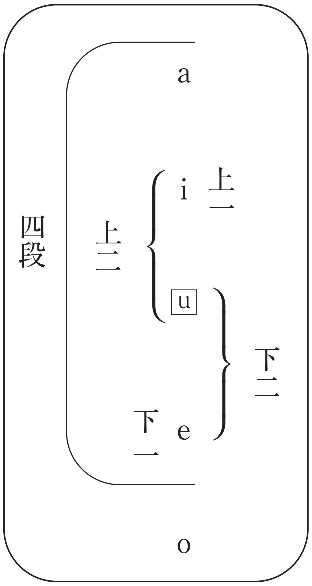
PART1　動詞の活用の種類・活用表

動詞

★活用の種類＝九種類

「四段活用・上一段活用・下一段活用・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用」

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	[り]	る	れ	れ



上一→下一＝**i→け**
上二→下二＝**i→e**

★活用の種類の見分け方

① 覚えておくべきもの

上一段活用＝「**干る**」「**射る**」「**鋳る**」「**着る**」「**似る**」「**煮る**」「**見る**」「**居る**」「**率る**」（「**率ゐる**」「**顧みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

カ行変格活用＝「**来**」・「**～来**」（→「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変
○「**～す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの　（例）「旅す」など
○「**～んず**」の形＝サ変が多い。　（例）「信ず」「案ず」「論ず」など
○「**漢字一字の音読み＋す**」　（例）「奏す」「具す」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往ぬ**」「**去ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居り**」「**侍り**」「**いまそかり**」（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

② ①にないもの→「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず→**四段**活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず→**上二段**活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず→**下二段**活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	③カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	③マ行上一段活用

① 「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

② 「語幹」＝「基本形」—「終止形」の文字

（例）「咲く」—「く」＝「咲」が語幹

「見る」—「みる」＝語幹なし

③ ○行＝一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行　（例）「咲**く**」＝**カ行**四段活用

一段活用は基本形の「**る**」**の**「**上**」の文字の行　（例）「**見**る」＝**マ行**上一段活用

【例題一】「居る」の活用の種類を答えよ。

〈Memo〉

第2講　PART1　確認問題

① 次の動詞の中から、活用の種類の異なるものとして最も適当なものを選べ。

ア　憂ふ　　イ　飢(う)う　　ウ　蹴る　　エ　見(み)ゆ

② 「われこそ死なめ、…」の傍線部分の動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段活用　　イ　ナ行変格活用　　ウ　下一段活用　　エ　下二段活用

③ 「むかし、をとこありけり。」の傍線部分の動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段活用　　イ　ラ行変格活用　　ウ　上一段活用　　エ　上二段活用

④　Ａ・Ｂの傍線部分の動詞「すゑ」・「老い」の、活用の行・活用の種類として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

Ａ「かきつばたといふ五文字（いつもじ）を句の上（かみ）にすゑて、…」
Ｂ「老（お）いぬればさらぬ別れのありといへば、…」

ア　Ａワ行・下二段活用　Ｂア行・上二段活用
イ　Ａワ行・下一段活用　Ｂハ行・上一段活用
ウ　Ａワ行・下一段活用　Ｂア行・上二段活用
エ　Ａワ行・下二段活用　Ｂヤ行・上二段活用

⑤　Ａ・Ｂの傍線部分の動詞「率（ゐ）」・「射（い）る」の、活用の行・活用の種類として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

Ａ「芥川（あくたがは）といふ河を率（ゐ）ていきければ、…」
Ｂ「ある人、弓射（い）る事を習ふに、…」

ア　Ａア行・上一段活用　Ｂヤ行・上一段活用
イ　Ａア行・上一段活用　Ｂヤ行・上二段活用
ウ　Ａワ行・上一段活用　Ｂア行・上一段活用
エ　Ａワ行・上一段活用　Ｂヤ行・上一段活用

解答

第２講　ＰＡＲＴ１　解答

〔例題一〕　ワ行上一段活用

第２講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① 「蹴る」は下一段活用の動詞、それ以外は下二段活用の動詞である。下一段活用の動詞は「エ（e）」の一つの段のみで活用し、「蹴る」の一語のみが該当する。下二段活用の動詞は「ウ（u）・エ（e）」の二つの段で活用し、全ての行に存在する、数の多い活用の種類である。

② 「死ぬ」は「な・に・ぬ・ね」の四つの段で活用するが、四段活用と異なり連体形が「ぬる」、已然形が「ぬれ」という形となる、変則的な活用をする変格活用の動詞である。ナ行変格活用の動詞は、「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の三語のみとなる。

③ 「あり」は「ら・り・る・れ」の四つの段で活用するが、四段活用と異なり終止形がウ段ではなくイ段の「り」で言い切る形となる、変則的な活用をする変格活用の動詞である。ラ行変格活用の動詞は、「あり」・「居り」・「侍り」・「いまそかり」の四語のみとなる。

④ 活用の行に注意して覚えておく必要のある動詞である。Ａの「ワ行下二段活用」となる動詞は「据う」・「植う」・「飢う」の三語のみ、Ｂの「ヤ行上二段活用」となる動詞は「老ゆ」・「悔ゆ」・「報ゆ」の三語のみとなるので、覚えておくとよい。

⑤ 活用の行に注意して覚えておく必要のある動詞である。「上一段活用」の動詞は数が少なく、「ひ・い・き・に・み・ゐ」＋「る」となる動詞、と覚えておくとよい。Ａは「ゐ（ワ行）＋る」の形で「率る」、Ｂは「い（ヤ行）＋る」の形で「射る」。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ　④ エ　⑤ エ